

教員名

大島秀武

企画名

シルタス検証プロジェクト

商業活性化型／イベント支援・運営型
IT活用支援型
企業



シルタスアプリ



ダイエー神戸三宮店でのイベント風景

企画・活動概要

スーパーマーケット(ダイエー)の利用者に対して食品購入データが自動的に分析されるヘルスケアアプリ“SIRU+(シルタス)”のダウンロードを促進し、アプリ利用の有効性を検証する。

検証実験では、購入した食品より算出された、エネルギー・栄養素量と摂取したエネルギー・栄養素量との一致度を確認し、購入履歴と身体状況との関連の2点を明らかにする。その際、食品購入の行動パターンを明らかにし、健康度が高い人とそうでない人の行動パターンを比較検討する。同時にアプリのレビューおよび改善点の提案を行う。



買い物履歴画面



栄養素の分析結果

経緯・背景・目的

食事アセスメントにスーパーマーケット等での食品の購入履歴を利用することが有用であるかどうかの検討が進んでいる。食品の購入履歴は個人が実際に購入し、世帯に持ち帰った食品を反映している。また、購入履歴が自動的に電子データとして蓄積されれば、対象者の負担、測定誤差の影響はほとんどない。よって食品の購入履歴が食事アセスメントに利用できるようなれば、従来のアセスメント法の短所を補える可能性がある。

日常生活で必須となる買い物は、ごく身近な行動であるが、多様な側面を持っている。例えば、買い物を実行する際には、自宅から店舗までの移動や店舗内での品物の購入に伴う移動が必要となる。そのため、買物の実施頻度には身体活動量の多寡が関連していることが考えられる。

そのため、買物行動そのものが生活習慣を反映しており、その実施頻度や購入内容などを分析することで、運動(身体活動)と栄養(食習慣)の両面の特徴を捉えることができると考えられる。そういった背景のもと、食品購入データが自動的に分析されるヘルスケアアプリ“SIRU+(シルタス)”が開発された。

取り組む課題

食品およびそのエネルギー・栄養素について、購入した量と摂取した量は必ずしも一致せず、食品・栄養素によって、一致の度合いが異なることが報告されている。本邦において食品の購入履歴を活用することが食事アセスメントを行う上で有用かどうかについての検討は行われていない。そのため、購入した食品より算出された、エネルギー、栄養素量と摂取したエネルギー・栄養素量との一致度を確認し、購入履歴と身体状況との関連の2点を明らかにすることが本プロジェクトで取り組む課題である。

上記の検証を通じてアプリのレビューおよび改善点の提案を行うことを目的とした。

本学(学生)の役割

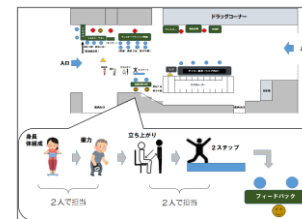
ダイエー神戸三宮店でのイベントの企画を行い、当日の運営を行った。

また、個別にヘルスケアアプリをダウンロードし、実際にダイエー学園都市店にて買い物をし、アプリの利用を行った。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

ダイエー神戸三宮店でのイベントでは、約40名の来店者に対して体力測定およびヘルスケアアプリの利用促進を行った。この結果をもとに2月末より検証実験を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により延期となった。

イベントでは学生が来店者に対して積極的にコミュニケーションをとるなど、大学内ではあまり見ることのできない姿が見られた。今後、スケジュールの見直しにより、検証実験を進める予定であり、それによってヘルスケアアプリのレビューおよび改善点の提案を行う予定である。



ダイエー神戸三宮店でのイベント内



実施した体力測定のフィードバック用紙

指導教員および関係者の紹介



人間社会学部 人間健康学科
教授 大島 秀武

専門は、運動生理学・運動処方。子どもから高齢者まで身体活動量と体力評価に関する研究を中心に行っている。



シルタス株式会社 代表取締役
社長 小原 一樹

ID-POSデータをヘルスケアに活用することをテーマとして、大手流通との概念検証をきっかけに2016年にシルタス株式会社を設立。